

## 令和7年度第1回豊田市学校給食センター運営委員会 議事概要

日時：令和7年7月30日（水） 午後2時から午後3時30分まで

場所：豊田市役所東庁舎 6階 教育委員会会議室

委員：

＜参加者＞ 11名

委員長：松原 秀敏（小中学校長代表）  
委員：今井 千絵（こども園園長代表）  
河野 輝敬（こども園園長代表）  
和田 ゆい子（こども園保護者代表）  
日高 一輝（豊田市PTA連絡協議会代表）  
熊本 陽子（小中学校給食主任代表）  
松崎 里香（小中学校給食主任代表）  
森岡 高恵（栄養教諭・学校栄養職員代表）  
富口 潤之輔（豊田加茂薬剤師会理事）  
今枝 稚加良（市民公募委員）  
加藤 智和（市民公募委員）

＜欠席者＞ 4名

委員：田口 真穂（小中学校長代表）  
重田 玲子（栄養教諭・学校栄養職員代表）  
竹内 清美（豊田市保健所長）  
安藤 伯秋（豊田加茂学校保健会会長）

事務局：中垣 秋紀（教育部長）  
熊谷 明典（教育部副部長）  
加藤 世明（保健給食課長）  
大上 良典（保健給食課副課長）  
加藤 由美子（保育課副主幹）  
奥村 洋（保健給食課主査監）  
近藤 邦博（保健給食課担当長）  
田中 和佳奈（保健給食課主査）

## 次第

- 1 あいさつ
- 2 委員紹介
- 3 豊田市学校給食センター運営委員会について
- 4 委員長及び副委員長の選出
- 5 委員長あいさつ
- 6 報告事項：豊田市における学校給食関連施策の現状について  
豊田市のめざす学校給食及び栄養摂取の状況、学校給食費の対象経費、  
物価高騰への対応、地産地食の推進、給食費無償化、代替給付の実施状況
- 7 協議事項①：給食費単価の見直しについて
- 8 協議事項②：ふれあい給食の拡大について
- 9 協議事項③：その他の取組について

### <要点>

委員長に松原委員、副委員長に田口委員を選出

#### **報告事項 豊田市における学校給食関連施策の現状について**

**豊田市のめざす学校給食及び栄養摂取の状況、学校給食費の対象経費、  
物価高騰への対応、地産地食の推進、給食費無償化、代替給付の実施状況**  
それぞれの報告事項の詳細について説明し、意見や感想を伺った。

#### **協議事項① 給食費単価の見直しについて**

現状の課題、単価見直しにかかる考え方について説明し、給食費単価の見直しや職員  
の負担額増加に対しての意見を伺った。

#### **協議事項② ふれあい給食の拡大について**

実施状況や給食費無償化の観点から見る不登校の子どもと保護者を取り巻く課題に  
ついて説明し、ふれあい給食拡大についての意見を伺った。

#### **協議事項③ その他の取組について**

食物アレルギー情報の ICT 化、ワークショップや給食センター探検ツアー、県立中  
高一貫校への給食提供について説明し、意見や感想を伺った。

## 議事の摘要

### **(委員長及び副委員長の選出)**

委員長に松原委員、副委員長に田口委員を選出

### **(報告事項 豊田市における学校給食関連施策の現状について**

**豊田市のめざす学校給食及び栄養摂取の状況、学校給食費の対象経費、  
物価高騰への対応、地産地食の推進、給食費無償化、代替給付の実施状況)**

<質問・感想等>

- 委員 昨年度までの赴任校で、食物アレルギーで弁当を持参しており、代替給付の対象になっている子が2名いた。手続きも難しくなく、給付されるのありがたいとの声が保護者からあった。対象にならない子は給付外となるため、線引きが難しいと私も感じている。
- 委員 栄養教諭から給食に豊田市の食材を使っていると話をすると、子どもたちの目が輝き、たくさん食べる。豊田市の食材を使っていることにありがた思っている。
- 委員 先日、会議で市外の栄養教諭と話す機会があり、無償化の対象は中学生のみであると聞いた。豊田市は園児から中学生まで無償化対象のため保護者目線で見てもありがたいと思う。給食の献立を立てる中で、価格と栄養価を調整することに大変労力がかかっている。また、インドネシアからの視察があったが、1食あたりの単価を知って驚かれていた。これだけの費用をかけている給食はありがたいと改めて思った。
- 委員 こども園ではご飯を食べることを慣れさせることから始まる。給食でいろんな食べ物に触れることで食への関心が高くなっている。買い物に行った際に「これ給食で食べた。」とつながった話ができるのがよい。無償化になったことで保護者の負担が軽減され、安心して給食を食べることができており良かった。
- 委員 給食の無償化については、保護者側からは特に課題は無く、むしろ喜ばれている。しかし、無償化ゆえに課題を感じていることもある。
- 委員 代替給付のことは知らなかった。不登校などで1か月以上学校に行かない子どもなども対象にされているのか疑問である。
- 委員 保護者の方々から話を聞いたが、金銭面に余裕がある方は給食費を負担してでも良いものを出して欲しいと意見があった一方で、生活が厳しい方は無償化になってありがたいとの声もあった。
- 事務局 代替給付は、不登校で給食を食べない子は対象になっていない。アレルギーや宗教上の理由などで給食を食べられず、弁当を持ってきている子には日数に応じて給付をしている。また、市外の特別支援学校に通う子も対象としている。不登校の子に対しては、無償化のため給食を準備して、いつ来ても給食を食べられるようにしているという環境を整えることで支援している。
- 委員 生産者と給食はお金だけの関係ではなく、互いが win-win の関係になるよう子どもとの関わりやPR活動などが取れると良いと思った。

委員 無償化について様々な意見があるかと思うが、私が住んでいる市は無償化していないので率直に無償化で羨ましいと思っている。地産地食もできている市、できない市があると思うが、豊田市は地産地食ができる環境ができており、これは当たり前のことではなく特別なことということを保護者だけでなく子どもたちにうまく伝わると、豊田市はすごいなと思ってもらえる効果的な施策になるのかと思った。

委員 無償化によって滞納徴収など事務局側の負担軽減などはどうか。事務側の意見も知りたい。

委員 学年費も滞納している児童もいたが、給食費無償化になったことで学年費をきちんと支払っていただくことができ、電話などで催促する件数も減った。

委員 同じく、中学校でも同様に電話する頻度が減った。学校が催促する負担が減った。

#### **（協議事項① 給食費単価の見直しについて）**

##### **＜意見・質問等＞**

委員 児童生徒は無償化であるので、教職員の負担をいくらにするかという認識か。

事務局 教職員の負担と1食分の単価をいくらで設定するかということに関わる。

委員 物価高騰や、子どもたちの食への関心を上げていくという点で、給食単価が上がることは妥当かと思う。

委員 質を落とさないためにも単価を引き上げることは検討しなければならないと思う。財源の見直しや予算の確保が必要となるが、子どもについては今のままの質を落とさない給食を提供してほしい。

委員 質を維持していくのであれば価格が上がってしまうのは仕方ないと思う。

委員 380 円になったとしても、上げることに抵抗感はない。額としてみれば月2,000 円の上昇は驚くが、外食するよりも安価であるし、給食の質を維持できるのであればありがたい。生産者の声も考えると、プラス 100 円は妥当ということではないが、必要だと思う。

委員 今までの金額も改定後の金額も、一般に見れば安いと感じると思う。おにぎりやサラダを買うだけでも給食の食材費を超える。この感覚をずらしてはいけないと思うし、この値段以上のものを食べている感覚があるのもっと上げてもいいと思う。他市町で給食センター勤務している人は、給食センターの駐車場代に加え、子どもたちよりも高い金額を支払っているところがある。

委員            もっと上げてもいいのではないかと思います。値上げの伸び率をみると、今年度はギリギリで、来年度から予算が足りなくなるのではないかと思います。また、生産者側として学校給食を見て思ったことは、仕入れ側とのコミュニケーションを改善すれば、購入価格が抑えられるのではと感じた。例えば提供が遅くなればなるほど在庫管理の費用、倉庫代などが上乗せされてしまう。献立の決定がもっと早ければ、経費を抑えることができる。全ての献立で難しいのであれば、豊田市産の物資を使う献立だけでも早めに決定していればいいと思う。

事務局            献立の決定は年間で決めている。47,000 食という規模がメリットでもデメリットでもある。食数の確定で発注量が変わるので、発注量の確定が遅くなる。食数が多いので、野菜の規格の制限もある。給食センターでの限られた時間の中で処理をしているが、規格がバラバラだと処理に時間が掛かってしまう。

事務局            生産者と食べる子どもたちまでのサプライチェーン全体を見て考えなければいけない時期だと思う。また補足説明として、給食費の単価は教職員の負担増加だけではなく、代替給付の給付額にも関わってくるということもご承知おきいただきたい。

委員            単価上昇は致し方ないと思う。代替給付の部分でも物価上昇に合わせて上げていくと思うと、考え方としては概ね良いと感じた。補足すれば、教職員の給食時間は休憩時間ではなく、アレルギーの管理も含め子どもたちの安全を守る時間として全ての職員が見ているということはご理解いただきたい。

## **（協議事項② ふれあい給食の拡大について）**

### **<意見・質問等>**

委員            開催エリア、回数の拡大については賛成。給食が子どもに与える価値は大人が思っているより大きく、不登校の子の中で給食を楽しみにして登校できている子もいる。一方で、給食の時間が苦痛で足が遠のく子もいる。給食に対するイメージが、子どもたちにとって魅力的なものにすることができれば、学校や給食全体のイメージも上がるのではないかと思います。また、給食センターだけでなく、交流館などにも広げると良いと思う。自宅に籠もりがちな子ども、保護者の居場所の1つとして交流館の活用も良いかと思う。地産地食ができてとても良い土壌にあるので、食べるだけでなく栽培から食すところまで関われるようにするとふれあう機会も増やせてよいのではないかと。

委員            ふれあい給食を知らなかった。通常のクラスに通う保護者も給食を食べたことがなく知らない人が多い。保護者が給食を知る機会がもっとあると良いと思う。

事務局            1年生の保護者を対象に無料の試食会を実施している。

- 委員 転校してきた保護者には機会がない。
- 事務局 給食センターでも適宜試食会を実施しているが、保護者だけではなく地域住民への試食会など、一般の方も食べられるような機会なども検討していきたい。
- 委員 栽培から関わる機会を増やすことは良いと思う。はあとふるルームに通う子どもたちも栽培等に参加できるといいなと思った。そういった子もふれあい給食に行けると良いと思う。
- 委員 保護者や一般の方も給食を食べられる機会があると良いと思う。衛生面が大丈夫であれば、弁当で提供できないか。
- 事務局 学校給食法の範囲の中でできることを検討していきたい。それ以外の部分での発信できる方法はあるかと思う。他の自治体では給食レストランなどもある。地域の魅力として発信できれば良いとは思う。国が推進している大人の食育がキーポイントになってくることもあるかと思う。広く、事業展開ができればより良いと思う。
- 委員 給食センターに食育コーナーがある。釜の中にペットボトルが入っており、スパテラで混ぜて調理体験ができるようになっている。調理体験していくのも社会とつながる場として良いのではないかと思う。
- 委員 無償化以外にも、不登校児童生徒に対して給食をいつ来て食べてもよいというのは、魅力である。保護者や地域に給食を知ってもらうために給食を通じて学校とのつながりが持てるのは良いと思う。給食を通じて一般の方にも豊田市の魅力を伝えられるのも良いと思う。委員だけでなく、子どもたちからも広く意見を集められれば良いと思う。

### **（協議事項③ その他の取組について）**

- 委員 今回の会で生産者からの意見を直接聞いたのが一番良かったと思う。子どもたちにも生産者の声を直接伝えたいと感じた。どこかで生産者の方を呼んで授業をしてもらい「今日の給食のこれだ。」と給食の時間を盛り上げたい。
- 委員 他委員からも意見が出たが、畑使っても良いという農家の方もいると思う。ネットワークを作る機会ができると良い。